彩の国プラチナ特別編成合唱団

第8回済州国際合唱祭招待演奏

2024 제주국제합창축제앤심포지엄
Jeju International
Choir Festival & Symposium

16 済州国際合唱祭に参加して

圧倒された海外の演奏レベル

南めぐみ　彩の国プラチナ特別編成合唱団・芸術監督／指揮者
埼玉県合唱連盟事務局長

令和6年(2024) 3月23日

不安感押して参加を決心！

「済州島、行こう！」と決心したのは昨年の9月。

メンバーが集まってくれるか、これがまず不安でなかなか引き受けられず、スタートがだいぶ遅くなってしまいました。そのことを国際合唱連合副理事長の江川善裕さんにお伝えしたところ「絶対最後には、行って良かった、楽しかったってなるよ」と明言してくれました(まさにそうなりました)。そこからまだ参加表明もしていない加藤良一さんと森川真弓さんを強引に巻き込みました。すみません。

そしてこの4人で「済州国際合唱祭実行委員会」を立ち上げました。メッセンジャーでのやり取りはいったいどれくらいになったでしょうか。休みの日も夜中も。サイゼリヤでワインとピザで何度も話し合いました。海外遠征の大変さよ。団員募集についてもたくさんの方にお声がけして、断られると人格を否定されたように落ち込み、行くと言われると飛び跳ねたくなるくらい喜びました。崖っぷちに立っている気持ちでしたが、私以外の三人の能力がとても高くて、一人じゃない心強さもありました。しかし、最後は自分が背負わなくてはいけないという気持ちでしたので、気が気ではありませんでした。

こうして19人の方たちが参加。お一人おひとり個性的で魅力あふれる方たちで、練習初めから帰国した今でも楽しくお付き合いが続いています。大きな山を一緒に越えた同志ですね。ピアニストは海外でピアノを勉強された草間葉月（くさまはづき）さん。美しいピアノの音色に魅了されました。

練習は全部で7回、それで7曲仕上げるという強行軍でした。でもソプラノの声が美しく音楽的で指揮者としては大変助かりました。

圧倒された海外の演奏レベル

参加して思ったのが、まず各国の演奏の圧倒的なレベルの高さ。韓国の合唱団の手話、表現に見入りました。インドネシアの声のすがすがしさ、ベースの安定感、見せ方も最高です。ラトビアの女声の声のクリアさと曲の美しさ、それを見事に表現する全員の音程の幅の狭さ正確さ、和音単音でクワンクワンなる倍音。米国ミズーリ州立大学の明るさとエネルギー、いくらでも湧いてくるハーモニー、ジャンルがポップスとまたがっている感じで声がとてもラフ。生で聴くことが出来、これだけで人生の宝物となりました。来てよかった、来られてよかった。

私はこの圧巻の演奏を聴いて、ステージに妥協は許されないなあと思いました。選曲、衣装、演奏すべてにおいて、これくらい出来ていれば良いか、などと着地点を作ってはダメなんだと。その先へその先へと変わっていかないと、彼ら彼女らと同じステージには立てません。

韓国語が通じた「ふるさと」

そして聴衆の温かさ。会場中が沸いていました。その熱量に乗せられて、我ら彩の国プラチナ特別編成合唱団もステージに出るときから晴れがましく、スター気分でした（笑）。歌の出だし、一瞬モヤった時もありましたが、歌いたい気持ちが溢れるような、心を込めた演奏ができました。最後のステージの「涙をこえて」は会場が揺れるように湧いていました。振り付けを工夫し、メンバーもグイグイ前に出てきて楽しいエネルギー出しまくり。最後の音、うれしくて練習のときよりも長かったにも拘わらず、声が伸びる伸びる。まさに生きてるっていう感覚です。忘れられません。

そしてそこから一転しての「ふるさと」。日本語に続いて韓国語になった瞬間、会場からの圧力を背中に感じました。聴きいってくれているのがわかったのです。お世話になった方たち、会場の韓国の方たちに喜んでほしいと思ってがんばりましたが、受け止めてくれた実感がありました。

今回集まってくださったメンバーの皆さま、7回足らずの練習だったのによくここまで歌ってくださいました。手前味噌になりますが、本番が特に良かったです。集中力と晴れがましさ。歌ってやるぜという気概。人生を楽しんでる大人の愉快さ。参加出来て本当に良かった。温かい目で応援してくれた方々に感謝を伝えたい気持ちでいっぱいです。

忘れられないキラキラした思い出と、仲間との絆、そしてミカンの帽子をかぶった済州を代表する石のお爺さんトルルバンが手に残りました。

あ、あと一つ。時間や規則を守ったのは日本だけだったように思いました。世界は自由だな。

〔編集後記〕

南めぐみさんは、海外遠征に必要なメンバーが果たして集まるか、大きな不安を抱えながらも一歩を踏み出しました。第16代アメリカ合衆国大統領となったリンカーンは“Determine that the thing can and shall be done, and then we shall find the way.”（できる！やるのだ！と決断せよ。やり方はその後見つけろ。）という言葉を残しています。

南めぐみさんは、とにかく引き受けるのだ、あとは努力するのみという心境だったにちがいありません。そして、思い通りではなかったもののみごとな成果を得ました。

（加藤良一）

第８回済州国際合唱祭参加 彩の国プラチナ特別編成合唱団実行委員会

江川善裕（代表幹事）、**南めぐみ**（芸術監督）、**森川真弓**（総務）、**加藤良一**（広報）

Back

彩の国プラチナ混声合唱団TOPへ

Home

HOME PAGEへ